

知らないことから…

相手の思いや願いを理解して行動すること

コミュニケーションとは、人と人との心の通じ合いであり、お互いの意思の疎通を図り、理解しあうことです。言い換えれば、私たちが何らかの行動を起こす時には、相手の思いや願いを十分に理解しておくことが大切です。

ここで「僕の背中を視線が刺す」という詩の一部を紹介します。

僕の背中を視線が刺す

車イスで街を行くボク。
生まれ育ったところなのに、心が構えてしまうのは何故だろう。

行きかう人は「オヤツ」といった表情でボクを見て、あわてて目をそらす。まるで見てはいけないうるのを見てしまったかのように。そして、すれ違ってから、きつと振り返ってボクを見るのだ。

その視線が、ボクの背中に刺す。痛いまでに…。

正面からの眼差しは、仲間同士の目。背中からの視線は傍観者の目だ。

可哀想にと思うのか、気の毒にと思うのか、それを目をそらす人が多いのだろう。

ボクの心が、外に出る喜びでどんなに弾んでいるか、誰も知らないのだ。

知らないことから誤解が生まれる。誤解をそのままにしておくと、偏見になっってしまう。偏見が積み重なれば差別になるんだ。

ボクたちのことを知らないことが、ボクたちへの差別にならないように、ボクたちのことを知ってほしいと思う。

車イスで街を行くボク。

正面からボクを見てほしい。そして、できるならば、ほほえみも。

この詩からも分かるように、障がいのある人と話をする時、うわべだ

けのいたわりを言うことは、個人の人権を尊重することにはつながりません。

障がいのある人だからという先入観にとらわれず、個性と人格を持った一人の人間であることを尊重して行動することが求められます。大切なことは、相手の思いや願いを十分に理解して行動することです。

人は、それぞれものの見方や考え方が違います。だからこそ私たちは、お互いにその違いを認め合い、受け入れられる広い心を持って、明るい社会を築いていきたいものです。

益城町教育委員会



ふるさと 地名漫歩

歴史の変遷と地名

368

飯田山常楽寺²⁸

益城町の中世寺院は旧5か

町村で2か寺近くあります。寺名の伝承と遺跡から寺の状況を一応推定できるものがありますが、場所も寺歴も不明のものが大部分です。その中で中世山岳寺院として場所と寺名がわかるのは福田寺と常楽寺のみですが、福田寺は遺跡のみで寺歴は不明です。

そこでこのシリーズの終わりに両寺院の歴史を益城町史の年表からまとめてみます。

●和銅6(713)年

朝来名峰肥前風土記に見える。

●平治元(1159)年 常楽寺延暦寺高僧真俊が開基か。

●治承3(1179)年

俊仍常楽寺の学僧となる。

●建久3(1192)年 鎌倉幕府成立(福田寺に関係か)。

●仁治元(1240)年 福田寺朝来名峰に開基される。

●宝治2(1248)年

砥川成福寺阿弥陀像造立。

●文永8(1271)年 「虎ヶ塔」造立。福田寺に奉獻。

●永仁5(1297)年

上安永地頭是円、五輪塔造

立、福田寺に奉獻。

●元徳元(1329)年

赤井城台地に五輪塔あり。この頃小寺が存在するか。

●元弘3(1333)年 鎌倉幕府滅亡。北条氏滅亡。福田寺後援者喪失の前兆か。

●弘和元(1381)年 今川了俊、本陣を飯田山に移す。

●明徳3(1392)年

南北朝合一なる。

●文明9(1477)年

応仁の乱終わる。

●天正元(1573)年

室町幕府滅亡。

●天正10(1582)年

島津軍飯田山城を攻撃。城主興呂木新介を傷害さす。

益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策



福田寺への入山口付近 (内寺)